

株主・投資家のみなさまへ

第122期 第2四半期ビジネスレポート

2023年4月1日～2023年9月30日

証券コード: 6516

<https://www.sanyodenki.co.jp/>

SANYO DENKI

122nd



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

第122期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、当第2四半期の概況や取り組みについてご報告申し上げます。

● 当第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧州での景気の先行きに不安があるものの、米国や中国で景気の回復に向けた動きもあり、経済活動の回復の兆しが見えました。

また、日本経済は、国内需要を中心に緩やかに回復しているものの、世界的な半導体関連需要の低迷により、経済活動は弱い動きとなりました。

そのような中、当社グループの主要な販売市場である通信装置およびロボット、工作機械、半導体製造装置などのファクトリーオートメーション市場からの需要は減退しましたが、受注残の消化は順調に進みました。

● 第9次中期経営計画と現在の取り組み

2021年4月からスタートした第9次中期経営計画では、「殻を破る」をテーマに、今までになかった新しいこと、新しいやり方を創出し、山洋電気グループがグローバル企業として「世界のトップブランド」を構築することを目標としています。3年目の今年は、引き続きグローバルな設計・開発体制や営業体制の拡充を進めてまいりました。

当第2四半期は、2022年度までの部材調達難はおおむね解消したものの、通信、半導体関連分野の需要低迷や、中国市場の回復ペー

ス鈍化の影響を受け、経営環境は厳しい状況となりました。

営業部門では、受注確保の取り組みとして、新たな市場の開拓や当社グループのリソースを活用した協業の拡大など、競争力の強化を進めてまいりました。生産活動においては、来年4月の本格稼働を目指し、SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.に第4工場を建設中であり、またフランスのSANYO DENKI EUROPE S.A.には、ステッピングモータの組立工場を新設するなど、グローバルな生産体制の強化が進んでいます。

また、持続可能な社会を目指し、グループ全体でSDGsへの取り組みを強化いたしました。

さらに、当社グループでは、社員が生き生きと働き、それぞれの能力を最大限に発揮することこそが、企業の中長期的な成長に繋がるという考えのもと、健康経営にも積極的に取り組んでおります。本年3月には、健康経営に取り組む優良な企業として、上位500法人に該当する「健康経営優良法人2023～ホワイト500～」に認定され、グループ全体で社員の健康づくりと社会への貢献を両立させる活動を推進しています。

● 配当について

当社グループの業績においては、後述のとおりとなり、当第2四半期末の配当金につきましては、1株当たり70円といたしました。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

売上収益
606 億円
前年同期比 **3.1%** 増

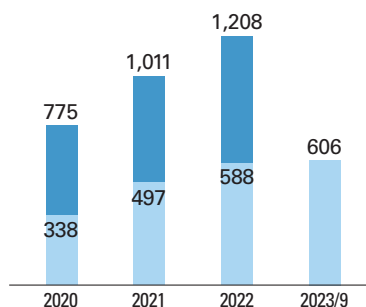
営業利益
69 億円
前年同期比 **4.1%** 増

税引前四半期利益
82 億円
前年同期比 **1.0%** 増

親会社の所有者に帰属する四半期利益
57 億円
前年同期比 **▲7.3%**

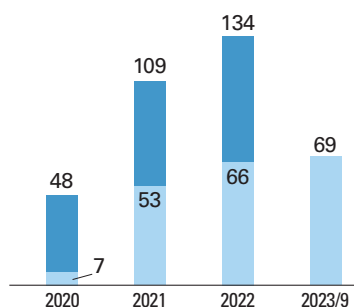
▶ 売上収益

(億円) ■ 第2四半期 ■ 通期



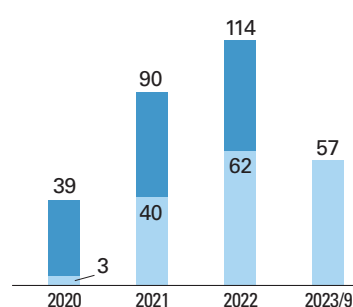
▶ 営業利益

(億円) ■ 第2四半期 ■ 通期



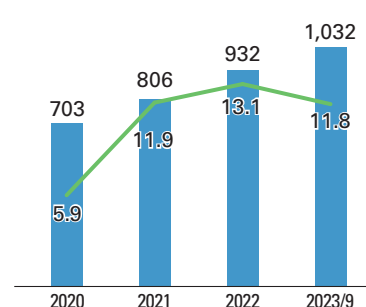
▶ 親会社の所有者に帰属する当期利益

(億円) ■ 第2四半期 ■ 通期



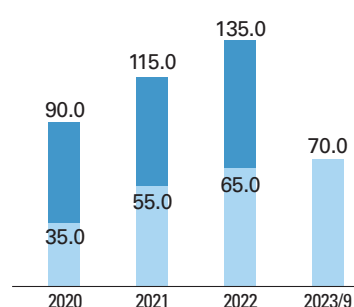
▶ 親会社の所有者に帰属する持分／ROE

(億円) ■ 親会社の所有者に帰属する持分 — ROE (%)

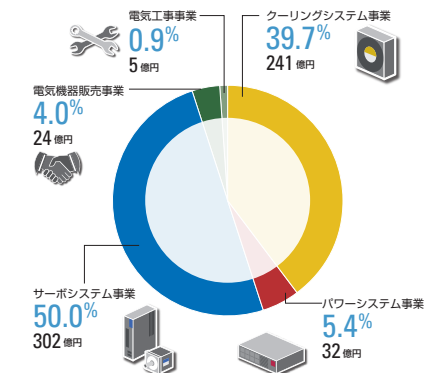


▶ 1株当たり配当金

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期



▶ 事業別連結売上収益構成比



INPUT

(2022 年度実績)

製造資本

設備投資

33 億円

知的資本

研究開発費

34 億円

財務資本

親会社の所有者に帰属する持分

932* 億円

自然資本

電力エネルギー消費量

4,897 万 kWh

人的資本

グループ社員

3,720 人

社会関係資本

資材調達先

555 社

山洋電気グループがめざすのは、当社グループが持つ技術と強みを活かし、企業理念に掲げる「すべての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現する」社会を創りあげることです。当社グループは、社会課題の解決に真摯に向き合い、これまでになかった製品の開発や、サービスを提供していくことで、新たな価値の創出に取りくみます。

製品群

San Ace
COOLING SYSTEMS



SANUPS
POWER SYSTEMS



SANMOTION
SERVO SYSTEMS



企業理念

私たち山洋電気グループは、
すべての人々の幸せをめざし、
人々とともに夢を実現します。

中期経営計画

第9次中期経営計画

- ・殻を破る。
- ・山洋電気グループが、グローバル企業として「世界のトップブランド」を構築する。



事業領域



医療



環境保護



情報や通信



ホームオートメーション



産業



エネルギー活用

マテリアリティ



事業を通じた社会的課題の解決



サステナブルなものづくり



働きがいのある職場づくりと人材育成

OUTPUT

社会的価値

生産性向上



生活環境の改善



健康と安全



省エネ
環境資源



(2023年度業績予想)

経済的価値

売上高

1,311 億円

営業利益

166 億円

親会社の所有者に帰属する当期利益

125 億円

役員紹介

Executives

小林 美範

執行役員
生産技術担当
サーボシステム事業部
事業部長

成瀬 素一郎

執行役員
資材調達本部本部長

小野寺 悟

執行役員
技術開発担当
パワーシステム事業部
事業部長

内堀 康一

常務執行役員
品質管理担当
クーリングシステム事業部
事業部長

小林 正文

社外監査役

林 廣明

監査役

栗原 慎

社外取締役

松本 吉正

取締役
専務執行役員
営業部門統括
グループ会社担当

児玉 展全

代表取締役
社長



Executives

平田 達也

常務執行役員
営業本部本部長

岩山 昌樹

常務執行役員
管理部門統括
中期事業担当
総務部部長

坂本 次郎

執行役員
営業本部副本部長
新規市場開発担当

山本 一郎

執行役員
山洋工業株式会社
代表取締役社長

山本 茂生

代表取締役
会長

中山 千裕

取締役
専務執行役員
事業部門統括
殻を破る活動担当
財務担当

鈴木 徹

社外取締役

三宅 雄大

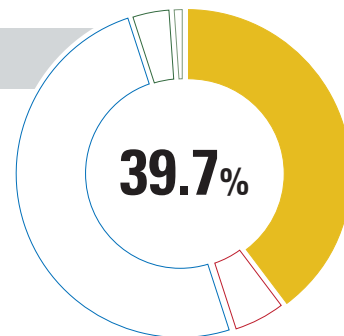
社外取締役

宮城 典子

社外監査役

クーリングシステム事業

San Ace(サンエース)は、冷却ファン、ファンユニットなど、山洋電気のクーリングシステム製品を総称するブランドです。



San Ace

クーリングシステム製品「San Ace」は、EV用急速充電器や高性能サーバ向けの需要が好調でした。一方、通信機器や一般産業機器向けの需要は、第1四半期から続く顧客の生産調整・在庫調整の影響を受けて低調でした。

その結果、売上収益は241億円(前年同期比16.0%増)、受注高134億円(前年同期比52.3%減)、受注残高240億円(前年同期比39.1%減)となりました。

主要製品

- DCファン
- 耐久ファン
- ACファン
- ファンユニット
- エアフローテスター
- PWMコントローラ
- San Aceコントローラ
- 空気清浄機

売上収益

241 億円

受注高

134 億円

受注残高

240 億円

新製品

長寿命ファン

San Ace 40L 9LGタイプ

業界トップ^{※1}の高静圧、高風量を実現した□40×28mm厚の長寿命ファンです。
当社従来品^{※2}に比べて、最大静圧は約8.6倍、最大風量は約1.8倍向上しました。
従来品と同じ長寿命を実現しつつ、静圧、風量の性能を大幅に向上したファンです。

※1 2023年5月25日現在。軸流DCファンとして。同サイズ、同等の冷却性能の場合。当社調べ。

※2 当社従来品は、長寿命ファン □40×28 mm厚「San Ace 40L」9Lタイプ(型番：9L0412J301)。

用途

制御盤、一般産業機械、医療機器など



新製品

ACDCファン

San Ace 120AD 9ADタイプ

業界トップ^{※1}の高静圧、高風量を実現した、□120×25 mm厚のACDCファン^{※2}です。
当社従来品^{※3}に比べて、期待寿命が2.4倍向上しました。

そのほか、装置の低騒音化、省エネルギー化に貢献します。

※1 2023年6月26日現在。ACDCファンとして。同サイズの場合。当社調べ。

※2 ACDCファン：AC(交流)で動作するDC(直流)ファンです。ACファンは一般的な交流電源で動作するので手軽ではありますが、DCファンに比べて性能が落ちます。一方、DCファンはACファンに比べて性能が高いものの、直流電源が必要です。ACDCファンは、ACで動作するDCファンなので、両者の特長を併せ持っています。

※3 当社従来品は、ACファン□120×25 mm厚「San Ace 120」(型番：109S085、周波数60Hz時)。

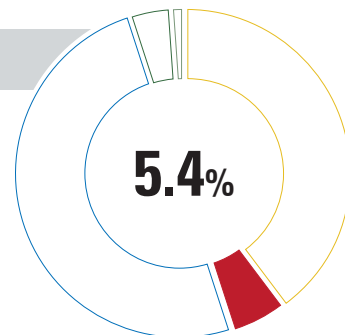
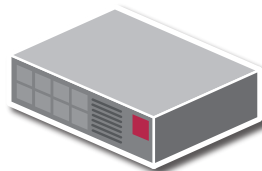
用途

制御盤、一般産業機械、医療機器など



パワーシステム事業

SANUPS(サナップス)は、
無停電電源装置(**UPS**)、インバータ、
太陽光発電システム用パワーコンディショナ
など、山洋電気のパワーシステム製品を
総称するブランドです。



SANUPS

パワーシステム製品「SANUPS」は、産業用設備向けの需要が堅調でした。
また、第2四半期から社会インフラ向けの需要が増加に転じました。一方、
半導体製造装置向けの需要は、顧客の在庫調整の影響を受けて低調でした。
その結果、売上収益は32億円(前年同期比5.6%増)、受注高39億円(前年同期
比2.1%減)、受注残高38億円(前年同期比1.8%減)となりました。

- 主要製品**
- UPS (無停電電源装置)
 - インバータ
 - パワーコンディショナ
 - 無瞬断切換装置
 - グリッド管理装置
 - 防災用ディーゼル発電装置
 - 瞬時電圧低下補償装置
 - 移動電源車

売上収益

32 億円

受注高

39 億円

受注残高

38 億円

新製品

常時インバータ給電方式UPS SANUPS A13A

高効率で、高信頼の給電ができる常時インバータ給電方式UPSです。
変換効率92%で、消費電力とCO₂排出量の削減に貢献します。

また、業界トップ*の広い使用電圧範囲と省スペースを実現しました。

※ 2023年8月31日現在。UPS(無停電電源装置)で同等の給電方式、電圧、容量、バックアップ時間の場合。
当社調べ。

用途

データセンタ、通信機器、通信インフラ、製造ライン、研究施設など



A13A622

A13A253

A13A183

新製品

常時インバータ給電方式UPS SANUPS A11N-Li

リチウムイオン電池を搭載した、高効率で並列冗長運転ができる常時インバータ給電方式UPSです。

同等仕様のUPSでリチウムイオン電池の搭載は、業界初*¹です。

リチウムイオン電池採用によりバッテリー交換が10年間不要*²となり、
メンテナンスの手間と費用が削減できます。

また、当社従来品*³と比べ最大で質量42%、体積25%削減しました。

※1 出力容量5 kVA、単機の場合。

※2 周囲温度30℃、停電10回／年の場合。

※3 当社従来品は、SANUPS A11N(鉛蓄電池 出力容量5 kVA、単機、バックアップ時間10分)。

用途

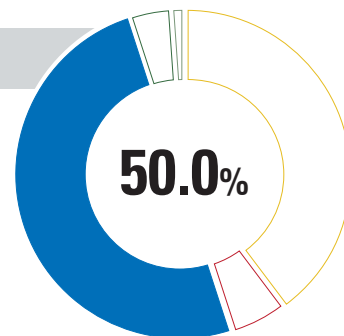
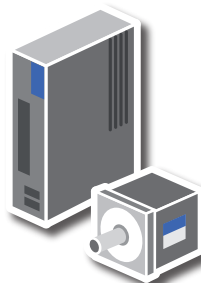
サーバ、通信基地局、工場設備など



事業部門別の業績

サーボシステム事業

SANMOTION(サンモーション)は、
サーボモータ・アンプ、ステッピングモータ・
ドライバ、コントローラ、エンコーダなど、
山洋電気のサーボシステム製品を
総称するブランドです。



SANMOTION

サーボシステム製品「SANMOTION」は、半導体製造装置、ウェハ搬送ロボット向けの需要が低調でした。また、前連結会計年度から続く中国市場の低迷により、電子部品実装機、金属加工機、射出成形機向けの需要も低調でした。

その結果、売上収益は302億円(前年同期比4.7%減)、受注高182億円(前年同期比54.1%減)、受注残高300億円(前年同期比34.1%減)となりました。

- 主要製品**
- ACサーボシステム
 - ステッピングシステム
 - DCサーボシステム
 - モーションコントローラ
 - リニアサーボシステム

売上収益

302 億円

受注高

182 億円

受注残高

300 億円

新製品

モーションコントローラ SANMOTION C

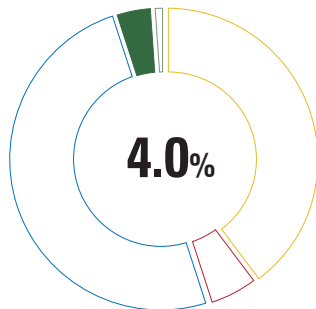
遠隔地から装置の監視やメンテナンスができるモーションコントローラです。
モータを制御すると同時に、装置の状態をリアルタイムに監視できます。装置の稼働データを収集し、さまざまなロボットや生産設備の生産性や品質の向上に貢献します。

用途

ロボット、搬送装置、工場の生産設備、農業・水産業などの自動化設備など



電気機器販売事業



電気機器販売事業は、産業用電気機器、制御機器、電気材料などの販売をおこなう事業です。

医療機器向けの需要の増加により、産業用電気機器、制御機器および電気材料の需要は増加しました。また、交通関連機器向けの需要も堅調に推移しました。一方、半導体業界やロボット業界向けの需要は低調でした。

その結果、売上収益は24億円(前年同期比6.1%減)、受注高21億円(前年同期比13.5%減)、受注残高11億円(前年同期比24.2%減)となりました。

売上収益

24 億円

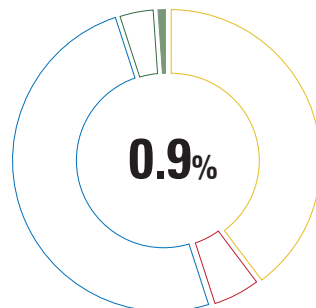
受注高

21 億円

受注残高

11 億円

電気工事事業



電気工事事業は、産業用コントロールシステムの設計、開発、施行、保全工事を提供する事業です。

主要顧客である鉄鋼業界からの需要は、老朽化した電気設備の予備品購入および点検、補修工事が計画どおりに実施され堅調に推移しました。一方、一般産業向けの電気設備工事の需要は低調でした。

その結果、売上収益は5億円(前年同期比6.0%減)、受注高7億円(前年同期比10.3%増)、受注残高7億円(前年同期比36.6%増)となりました。

売上収益

5 億円

受注高

7 億円

受注残高

7 億円



TOPIC 1 フランスの拠点の組立工場が稼働を開始

ヨーロッパにおけるビジネスのさらなる拡大を目指し、SANYO DENKI EUROPE S.A.でステッピングモータの組立工場が2023年10月に稼働を開始しました。ヨーロッパ市場への製品供給リードタイムを短縮し、製品のカスタマイズにも柔軟に対処できるようになります。今後も山洋電気グループの各拠点では、世界中のお客さまに均一で高品質な製品をスピーディーにお届けするため、製品・サービスの供給体制を強化してまいります。



SANYO DENKI EUROPE S.A. 外観

TOPIC 2 AC サーボシステム SANMOTION Gが2023年度グッドデザイン賞を受賞

当社が開発した「AC サーボシステム SANMOTION G」が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2023年度 グッドデザイン賞」を受賞しました。今回の受賞では、ユーザーの立場に立ったデザインや、性能を高めながら環境にやさしい小型のモータと、わかりやすく使いやすいインターフェースのアンブを実現している点が高く評価されました。「すべての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現します」という当社グループの企業理念が、製品開発を通じて評価されたことを光栄に受け止め、今後も新技術・新製品の開発を通じ、社会課題の解決に取り組んでまいります。



受賞製品 SANMOTION G

TOPIC 3 カーボンニュートラル実現に向けたCO₂排出量削減の中長期目標を策定

気候変動に対する取り組みの一環として、当社グループのCO₂排出量を2030年度に46%削減(2017年度比)、2050年度までに実質ゼロとする中長期目標を策定しました。

CO₂排出量削減目標* (基準年度：2017年度)

2030 年度目標	46%削減
2050 年度目標	カーボンニュートラル達成

カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを一層加速するため、2023年4月から、長野県上田市にある研究開発拠点のテクノロジーセンターにおいて使用される電力を、水力発電由来の「信州Greenでんき」に切り替えることといたしました。これによりテクノロジーセンターの電力は、実質的に再生可能エネルギー100%に切り替わり、電力使用によるCO₂排出量はゼロとなります。従来の取り組みに加え、これらの水力発電由来の電力への切り替えをおこなっていくことで、カーボンニュートラル達成を実現してまいります。

※ 山洋電気株式会社、山洋電気テクノサービス株式会社、山洋電気ITソリューション株式会社を対象。CO₂排出量であるScope 1(自社によるCO₂の直接排出)、Scope 2(他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出)が対象。

株式情報／会社情報

株式総数および株主数

(2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	12,972,187株
当第2四半期末株主数	4,697名

大株主

(2023年9月30日現在)

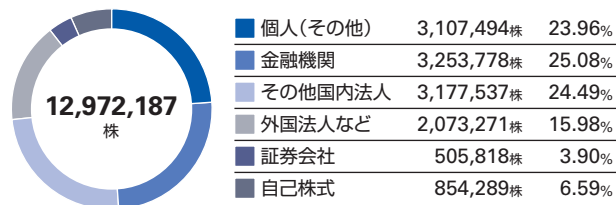
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
協同興業株式会社	1,845	15.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,319	10.89
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	588	4.86
山洋開発株式会社	318	2.63
日本生命保険相互会社	298	2.47
MSIP CLIENT SECURITIES	274	2.27
株式会社みずほ銀行	227	1.88
株式会社SBI証券	224	1.85
RE FUND 107-CLIENT AC	206	1.70
株式会社八十二銀行	195	1.61

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 当社は自己株式854千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別株式分布状況

(2023年9月30日現在)



会社概要

(2023年9月30日現在)

会社名	山洋電気株式会社
創業	1927年8月
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020
資本金	99億円
社員数	3,734名(グループ全体)

主なグループ会社

(2023年9月30日現在)

日本	山洋工業株式会社 山洋電気テクノサービス株式会社 山洋電気ITソリューション株式会社
アジア	SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 中山市山洋电气有限公司 山洋电气(上海)贸易有限公司 上海山洋电气技术有限公司 山洋電気(香港)有限公司 山洋电气贸易(深圳)有限公司 山洋电气精密机器维修(深圳)有限公司 台湾山洋電気股份有限公司 山洋电气(天津)贸易有限公司 SANYO DENKI KOREA CO., LTD. SANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD. SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED
北アメリカ	SANYO DENKI AMERICA, INC.
ヨーロッパ	SANYO DENKI EUROPE S.A. SANYO DENKI GERMANY GmbH

取締役および監査役

(2023年9月30日現在)

※代表取締役	山本 茂生
※代表取締役	児玉 展全
※取締役	中山 千裕
※取締役	松本 吉正
取締役	鈴木 徹
取締役	栗原 慎
取締役	三宅 雄大
常勤監査役	林 廣明
常勤監査役	宮城 典子
常勤監査役	小林 正文

※印の取締役は、執行役員を兼務

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ
特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス
《日本証券代行》<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

当社「IR情報」ホームページアドレス
<https://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1
電話 (03) 5927 1020
ホームページ <https://www.sanyodenki.co.jp/>